

胃カメラ検査説明書

上部消化管内視鏡検査は、内視鏡（胃カメラ）を用いて、食道、胃、十二指腸の中を観察し、病気の診断を行うものです。当クリニックでは検査目的および患者様の要望に応じて、経口内視鏡と経鼻内視鏡を使い分けています。

経口内視鏡検査 前処置として咽頭麻酔を行います。従来からあるスタンダードな方法です。

鎮静剤、鎮痛剤を使用するの経口内視鏡検査 検査が非常に辛いという方に適応があります。

苦痛が軽減される一方で、呼吸の乱れ、眠気、ふらつき、検査中の記憶が欠如するなどがあります。また、検査後、薬の効果がさめるまで回復ベッドでおやすみしていただきます。

経鼻内視鏡検査 前処置として鼻腔の麻酔を行います。咽頭反射を起こしにくいアプローチであるため、検査が楽に受けられることが多いです。検査後の食事摂取も早い時間から可能になります。鼻腔の形状や狭さから、鼻の痛みを強く感じる方や、挿入できない方もいます。

その場合は咽頭麻酔を加え、経口からのアプローチに切り替えます。また、まれに鼻出血を伴います。

偶発症について

日本消化器内視鏡学会の第5回全国集計（2010年）によると、偶発症の頻度は、前処置や鎮静剤など、使用する薬剤に起因するもの（血圧低下、呼吸抑制、アレルギー、ショックなど）が0.0037%でした。また、生検を含む上部消化管内視鏡検査における偶発症（出血、穿孔など）の頻度は0.005%でした。これらの偶発症が発生しないように細心の注意を払って検査を施行いたしますが、万一これらの偶発症が生じた場合は、緊急処置を含む最善の処置を行います。ただし、止むなく処置（入院、手術を含む）が必要になった場合の医療費は患者様の負担となりますのでご了承下さい。

同意書

私は、今回の内視鏡検査の内容について、上記の説明を受け納得しましたので実施に同意します。また、緊急の措置を行う必要が生じた場合は、医学的に必要と考えられる医療行為を行うことについても同意します。

同意された方は以下の項目にもご回答下さい。

検査方法を選択してください（ にレ印のチェックをしてください）

経口内視鏡検査 鎮静剤、鎮痛剤を使用するの経口内視鏡検査 経鼻内視鏡検査

病理組織検査の施行について選択してください（ にレ印のチェックをしてください）

医師の判断にまかせる

観察のみの検査とし必要な際は後日に再検する

記入日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

患者氏名 _____

本人との続柄

代筆者氏名 _____

(_____)

説明医師 _____